

田んぼの学校

ちょうふDE田んぼ日記 その24

今年も雨がたより



「くろつけ」のようす

この時期は、田んぼの様子が一変する季節です。五月に準備した苗代には10数センチの背丈に育った苗が隙間なくひしめき合い、田植えを待っています。

6月上旬。用水路の水を引き入れて、「くろつけ」と呼ばれる水漏れ防止のための畦作りが予定通り完成しました。その翌週はホタルの観察会。ここまではよかったのですが、梅雨入り宣言がでた後、水が退いてしまいました。

上流の田んぼで田植えが始まったせいでしょう。今年も無事に田植えを終えることができるか、少し心配になってきました。田んぼに水がなければ、代掻き(しろかき)はできません。予定していた作業は水量不足のため見送りになりました。その間にも苗は育っていきます。あまり大きくなり過ぎると、間引きをしなければ、せっかく育った苗も枯れてしまいます。雨を逃さずに代掻き、田植えのチャンスを待つ日が続きました。雨が降ってくれますように・・・そして待望の雨がきました。



6/22(水) 午前中から代掻きを初め、夕方までかかって半分まで植えました。そばで田植えを見ていたおじいさんの聞き取れない歌に驚きました。もしかしたら田植え歌の一種だったのかもしれない。翌日は朝5時半から残りの作業。平日とあって田植えを体験できた人が少なかったのはとても残念ですが、無事に終わることができました。その後は空梅雨続きで、すでに田んぼは水が上がっています。畑では、キュウリが実り、トマトが色づき始めました。まだまだこれからが大変。虫や雑草を取り、肥料を入れながら、暑い夏との闘いが始まりそうな予感です。



<写真>

左:「しろかき」のようす

右:「田植え」のようす

この頁の文:
田んぼの学校
こんどう

雨乞いのおはなし

神奈川県、丹沢山系の大山に、阿夫利神社があります。登山道の入り口から神社の境内までの道の両脇に石の手すりに佐須や調布市内の地域の名前、また狛江などの地名が刻まれています。

これは「大山講」と呼ばれる民間信仰で、講の信者の寄進によるものです。阿夫利神社は紀元前97年頃の創建と伝えられる古社で、755年(天平勝宝7)雨降山大山寺[あふりさんだいさんじ]と号したといわれています。江戸時代には庶民の間で大山詣が流行しました。佐須の昔話にも、大山講帰りに狐に化かされた話が残されています。大昔から水の確保は農家にとっての死活問題だったことがよくうかがえます。

入間・樹林の会



白アジサイの林

6月19日(参加者9人) 民家との隣接地 三角地 側から西側樹林地へと伐採しました。シュロ・シロダモ・アオキ・アズマネザサを刈ると、見晴らしがよくなり、白いアジサイの林が出現しました。樹林地の全体像が少しずつみえてきて、汗をかいての作業に満足しました。

落ち葉だめづくりについては、大きさや場所の確認をし、先月来の伐採枝の処分についても話しあいました。西側樹林地への道づくり・伐採等でますます作業に追われそうです。(安部)

カニ山の会

6/18(土)曇り 参加者8名

管理や調査に対してのイメージを固めるため、前回よりまた一段と葉が茂りムラサキシキブの花が咲く樹林内をひとまわりしました。

その後「ふれあいの家」でカニ山がどんな場所であって欲しいかの話し合いをしました。「生物多様性を目的とした保全・子供達の遊び場・市民が自然と深く関われる場所」の3つの意見が出されましたが、保全課や緑と公園課との関係も今後調整がなされていくことになっているので、それをふまえて管理活動に活かして行きたいと思います。(鍛冶)



「ふれあいの家」での話し合い

次回
7月9日(土)

<内容>
方形枠調査区画
設定

興味のある方は
是非ご参加下さい。
(P.4参照)

調布市環境モニター

・6月11日曇り、参加者8名。

多摩川、京王線鉄橋下流オギ原に集合し、ニヶ領上河原堰フィールドまで植物を観察・記録し、約70種ほどの植物が記録できました。

マグワの木によく実がついていたので、しばし子どもに返って「どどめ」の実をおやつにほおばりました。(でも実はヤママグワの実の方が甘いとのこと?) カワラサイコ(『東京都の保護上重要な野生生物種』掲載、東京都東部・危急種)の黄色の花が花盛りでした。

他に、カイツブリ、カルガモの親子、トビ、コアジサシという鳥を見ることができました。また、オオヨシキリ、セッカ、キジの声を聞くこともできました。(H)

次回植物調査: 7/2(土) 9:30~16:00



上: マグワの実
左: 活動のようす

調布あちこち 2

梅雨に入ったというのに、真夏のように暑い日が続く、雨はどこへいったのだろうという感じがします。こんな時は、街を歩いていても水辺をみかけるとほっとしますが、調布の代表的な水環境の一つに、佐須用水があります。

佐須用水は深大寺周辺の国分寺崖線に降った雨が集まり、都立神代高校の農場のある谷戸から湧き出した湧水が水源です。佐須のあたりは昔の文献から推測すると、稲作中心の人がおぼれるくらいの湿地帯だったようです。用水の水は最後に野川に流れ込みますがこの季節は、田んぼに水を引くため野川まで水が届きません。水量が減った野川を見ると武蔵野台地に降った雨が少しでも地下に染み込み、気持ちの良い水辺が続いてくれることを願います。

かに山を背景にした佐須用水





入間・樹林の会 本多紗絵さん



崖線の緑が気に入って移り住んだ入間町。ここの林は誰の所有地かと、薄暗い手入れされていないことも気がかりでした。そんなとき偶然目にした小さな貼り紙で、市有地である林に手を加える活動が始まることを知ったのが入間樹林の会への参加のきっかけ。活動の初期、実習を兼ねて参加した長沼公園の作業（園内を流れる小川の補修）でボランティア達のチームワークや仕事振りに惚れ惚れし、このようなグループが育つといいな！と感じ、今もその気持ちを持ち続けています。入間樹林の会も人数などスケールは違いますが活動の雰囲気はそれに近いと思っています。

大田区森が崎下水処理場の屋上に営巣し始めたコアジサシという渡り鳥のことをご存知でしょうか。絶滅危惧種でツメをひと回り大きくしたような白い鳥です。砂浜がなくなり、広いコンクリートの屋上を彼らは営巣に利用しました。砂利を敷き、雑草の除去をし、より彼らの生態系に近い自然の条件を整え、その数を増やして行こうとする活動にも参加しています。いろいろな活動に参加することによって、学ぶことも多いです。

この間は樹林地からアオバツクの鳴声が1週間位聴こえました。お相手が見つかっていたらいいですね。人間のたぬき君の姿が昨年あたりから見かけられませんが、この林が多く生き物達に役立ち、また人々にもホッとできる緑の休息地となることを願っています。

保全課の窓口

人間樹林の会、コカ・コーラ環境教育賞受賞

自然を大切にしている教育活動を行なっているボランティア団体を表賞する「コカ・コーラ環境教育賞」(読売新聞社協力)の主催者賞に当市の「人間樹林の会」が選ばれました。全国から120団体の応募があり、実践的で継続的な活動が認められたものです。

「人間樹林の会」は、国分寺崖線の雑木林の保全を目的に2000年に発足。

入間町1丁目の崖線樹林地をフィールドに、雑木林の間引きや下草刈りなどの保全作業の他、ゴミ拾いや地元児童館の子どもたちとドングリを使った工作会や植物の観察会を行なっています。



児童館の子どもたちとの交流会

6月30日(木)午後1時~4時、第1回環境基本計画策定委員会が開催され、活発な議論がなされました。

次回は、7月28日(木)午後6時からたづくり9階研修室です。傍聴可。

~ ちょうふ環境市民懇談会 ~

活動グループ連絡会

6月20日(月)18:30~ たづくり602

参加者: 市民7名

**1. 連絡会の運営内容及び運営組織について
連絡会の設置目的は?**

- ・多くのグループや個人の情報交換の場。活動を楽しみ続ける知恵を学びあえる場。
- ・市のプロジェクトの場合、市民への活動報告の義務があるだろう。

なぜ参加者が減少していったか

- ・ただ報告するだけでは意味がない。面白くないし役に立たない
- ・司会や記録などの役割分担が出席した人に振られるので負担になる。

今後の連絡会運営の内容について

- ・今後も各グループの活動を報告もするが、主に連絡会の参加者にとって役立つ情報交換の場とするために、まずは市のプロジェクトから活動紹介を担当していく。

連絡会の運営組織について

- ・当面、懇談会運営委員が司会し、議事録の作成を行う。7/11の運営会議で担当者を決める。

2. 次回の予定

- ・次回開催日 7月19日(火)
- 18:30~20:30 たづくり303
- ・詳細な活動紹介グループ・・・環境モニター

運営委員会

6月13日(月)18:30~たづくり301・302

出席者: 市民7名。行政;4名+多摩川センター3名

1. ワークショップ「環境管理計画の見直しに関する環境市民懇談会からの意見整理」

これまでの懇談会の活動での意見から、特に関心の高かった8項目を設定し、それらについて提案する意見を出し合った。

<提案項目>

環境保全についての提案

樹林の保全/水辺環境の保全/湧水の保全/農地の保全

市民参加についての提案

環境学習、自然の理解の増進/市民活動への支援/パートナーシップの充実/市民参加の機会をわかりやすくする

2. 運営会議の年間スケジュール検討

懇談会に関係する活動のスケジュール整理のためたき台が運営委員長から出された。

3. 懇談会からの環境基本計画策定委員の選出

江刺益子さんを互選により選出した。

4. 次回予定

7/11(月)18:30~20:30

- ・懇談会に関わる活動の位置付けを整理し、運営会議年間スケジュールを作成。3~5年後の調布の環境を見越したプロジェクトを検討。

保全活動・イベント案内

環境モニター

・7/2(土) 9:30~16:00 みんなの広場
南土手ベンチ付近 植物調査(ワンド)・勉強会
・8/6(土) 9:30~12:30 多摩川鉄橋下流
オギ原 植物調査(堰付近)
持ち物: 図鑑・ルーペ・双眼鏡等があればご持参
ください。問合せは事前に環境保全課へ。

人間・樹林の会

7/17(日) 9:30~12:30 人間地域センター集合
内容 方形枠調査, 保全作業
原則として毎月第3日曜に活動しています。
関心のある方はぜひ環境保全課にお問合わせくだ
さい。直接地域センターに来訪も可です。

かに山の会

日時: 7月9日(土) 10:00~12:30
場所: 深大寺自然広場入り口集合(野草園前)
内容: 東樹林地のゴミ拾い、方形枠調査の枠を設定
原則第2土曜を活動日としたいと思います。雑
木林塾で学んだ人たちが集まって活動を始めたばかり
ですが、興味のある方はぜひご参加ください。連絡は
環境保全課へ。

懇談会-運営委員会

7/11(月) 18:30~20:30
たづくり6階 601会議室
内容: 運営会議年間スケジュール検討
懇談会プロジェクトについて
調布の自然環境について、市民と行政で話し合っ
ています。興味のある方はどなたでも参加歓迎です。

懇談会-連絡会

7/19(火) 18:30~20:30
たづくり3階 303会議室
内容: 情報交換 環境モニターの活動紹介 など
市内で自然環境の保全活動しているグループ・個
人の情報交換の場です。初めての方もどうぞ。

じゃがいも掘り大会

じゃがいも掘りをしよう! 掘ったじゃがいもで、
「じゃが焼き・じゃがゆで」おみやげにも!
草花の観察もします。
7月17日(日) 10:00~12:00
場所: 都立神代植物園 東地区エリア
(公園の外 五差路の西側)
参加費無料 雨天決行 子ども達大歓迎
主催: 22世紀の森づくり・神代
協働: 東京都西部公園緑地事務所・都立神代植物公園

サポーターとしてご協力をお願いします

平成17年度子どもエコクラブの活動をサポートして
くださる方、宜しくお願い致します。
<今後の活動予定(一部)>
8月6日(土) 9:00~15:00
「かに山デイキャンプ」
10月1日(土) 15:00~19:00
「多摩川の野鳥・秋の虫・さかなたちの観察」
問い合わせ: 調布市環境保全課 0424-81-7086

親子で体験デジカメ撮影会

市制50周年を記念し、市内の幼稚園児とご両親のデ
ジカメ撮影会を実施いたします。調布の動植物の生態
を幼児の目線で観察し記録としてのこします。

日時: 7月10日(日) 9:30~12:30
集合: 神代植物公園正門入口前
募集人数: 30組(幼児と保護者)
募集締め切り: 7月5日(火)
申込問合せ: 調布市環境部ごみ対策課
0424-81-7686

編集後記

梅雨のはずなのに猛暑で、6月なのにばててしまいそうな日々でした
が、今朝は気持ちの良い雨です。
田んぼの学校では田植えが終わったとありましたが、これでイネ達も
ほっとしているのではないのでしょうか。
日本は繊細な四季があっという間に、とってきたのですが、年々季
節変化が派手になってきているような気が・・・? 温暖化などの環境
変化については、人間の活動の影響とか、いやいや地球のサイクルの
一環とか、いろいろ意見はあるようですが、「しとしと降りつづく雨」
が懐かしいと思う今日このごろです。(編集当番: 羽生田麻衣)

ちょうふ環境市民懇談会は調布の自然環境を市
民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復して
いくために設立されました。2001年から保全活
動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、話し
合いなどの活動をしています。ぜひご参加ください。

発行: ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境保全課 tel 0424-81-7086
E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp